

# 富秋中学校区 (池上小学校、幸小学校、富秋中学校) 施設一体型義務教育学校の設置に向けた 検討状況と今後の取組みについて

令和2年6月  
和泉市・和泉市教育委員会

## 【富秋中学校区等まちづくり構想】

「富秋中学校区等まちづくり構想」とは富秋中学校区を中心とした地域において、学校や市営住宅をはじめ、老朽化した公共施設の再編及び生じた跡地の活用により、公共施設の最適配置の実現を図るとともに、地域課題を解決し、持続可能なまちづくりの取組み事項をとりまとめたものです。

(経過) 平成30年2月より、地域の住民の方などが主体となり、「富秋中学校区等まちづくり検討会議」を設立し、約2年間の議論を重ねて「まちづくり構想(地域案)」を策定しました。この地域案を尊重しつつ、和泉市として令和2年3月に「和泉市富秋中学校区等まちづくり構想」を策定しました。

## 学級数、児童生徒数の比較 (昭和60年：令和2年)

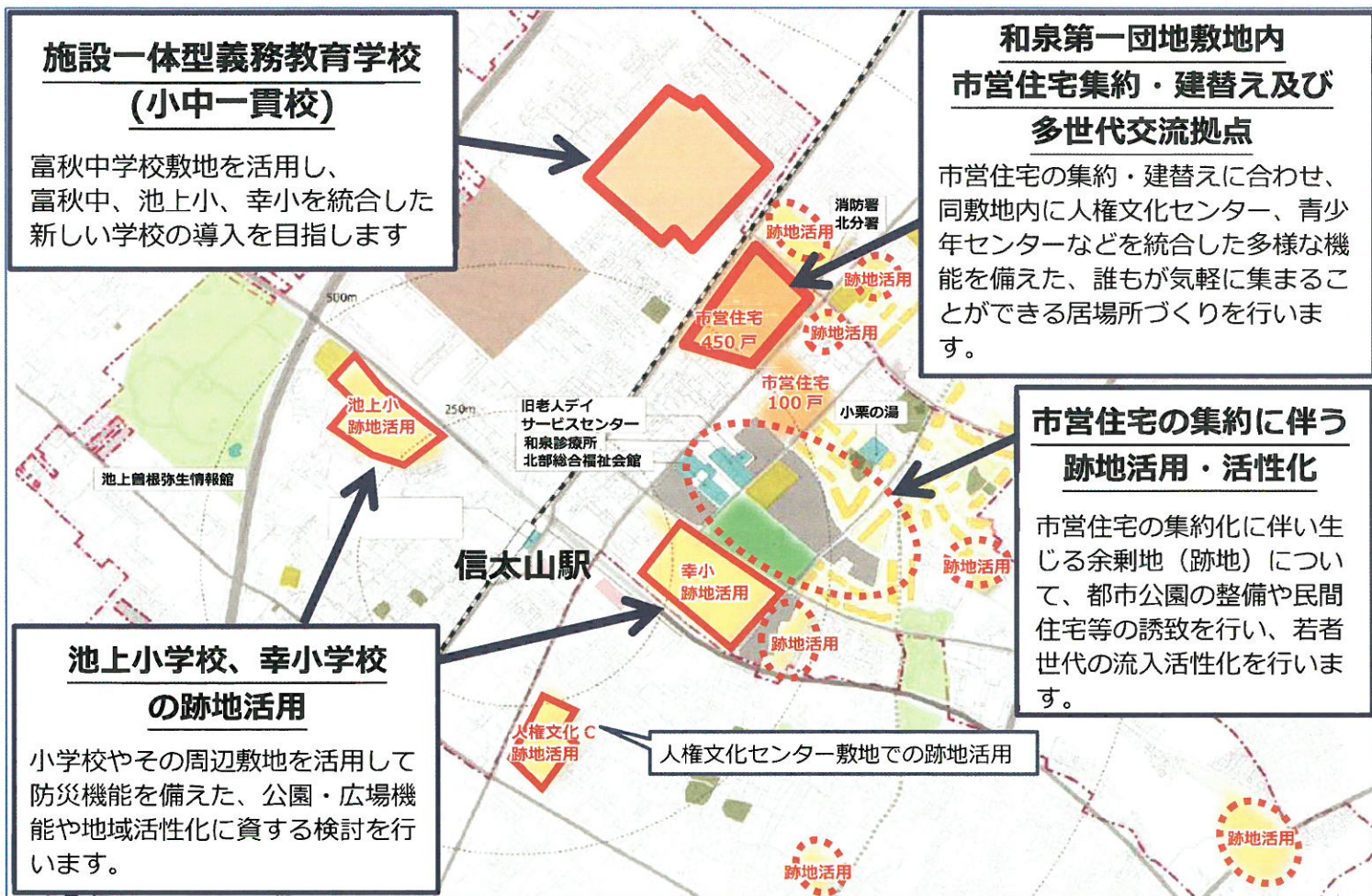
昭和60年度

	学級数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
池上小	15	78	80	94	76	100	104	532
幸小	10	34	20	52	44	38	57	245
富秋中	18	213	184	182	-	-	-	579

令和2年度

	学級数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
6	21	32	41	33	33	38	198	
6	14	18	18	16	11	27	104	
6	44	39	70	-	-	-	153	

※昭和60年と比較すると児童生徒数は約1/3にまで減少しており、小学校では全ての学年が1学級でクラス替えができない状況です。富秋中学校についても加配を活用するなどして複数学級を維持していますが、望ましい教育環境の確保について検討が必要な状況が続いています。



## 【これまでの取り組み】

たくさんの意見を共有してきました！

### （意見交換）

・平成 30 年 2 月より富秋中学校区を中心とした「富秋中学校等まちづくり検討会議」がスタート。「子育て・教育部会」にて地域や PTA の代表者のほか一般の方にも参加していただき、学校のあり方について意見交換を行ってきました。

※まちづくり検討会議 14 回実施

※子育て・教育部会 11 回実施



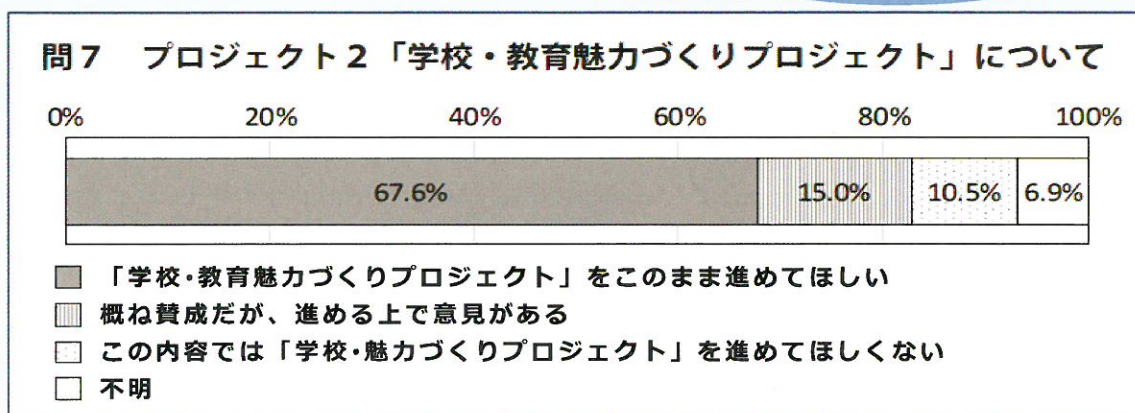
### （説明会）

・富秋中学校区各校や校区内のこども園、幼稚園への個別訪問による説明、地域説明会を実施。 ※5 回実施



### （アンケート調査）

アンケート調査でも約 8 割が新設校の導入を進めることについて賛成、概ね賛成の回答でした。



## 【施設一体型義務教育学校の開校時期は？】

今年度中に合意形成がなされた場合には**設置・開校の時期は、令和 9 年度頃**を想定しています。



ただし、この見込みは今後の地域との協議の状況等により、変更になる可能性があります。

## 【これからの取り組み】

「施設一体型となり小学校と中学校が 1 つとなることに不安を感じる」、「小中一貫教育の内容がどういったものか十分に分からない」というご意見もあります。

また、そういったお声に対し、どのような取り組みが求められているのか、施設一体型義務教育学校になると何が変わり、どのような教育が行われるのか等、意見交換を行いながら新しい学校像の理解と共有を深めていきます。



## 【施設一体型義務教育学校とは？】

和泉市では、平成29年4月から全ての学校で小中一貫教育を実施しています。

また、同年4月には、南松尾はつが野校区に施設一体型の義務教育学校（小中一貫校）が開校しました。



### ※施設一体型とは？

小学校と中学校を、同敷地内の1つの施設内に設置した形態の学校です。

異学年交流や、小中教員による細やかな子どもへの支援等の取組みが充実させやすい教育環境となります。

### ※義務教育学校とは？

平成28年度から施行された新しい校種で、義務教育9年間を通して、より系統的な教育課程を編成して学校運営を行います。

※学習内容は他の小学校、中学校と準じます。



南松尾はつが野学園では、施設一体型義務教育学校の良さを活かし9年間の柔軟かつ系統的な教育を展開しています。

例：中学校教員による前期課程への教科指導  
小学校教員の後期課程（7～9年生）への関わり  
5年生からの部活動参加 など

※義務教育学校では、小学校1～6年生のことを「前期課程」、中学校1～3年生のことを「後期課程」と呼んでいます。

## 【新しい学校になると、どんな教育が行われるの？】

### ・小中教員による9年間の育み

- 系統的な学習指導
- 小中教員によるきめ細やかな生活・生徒指導
- 各家庭とのつながりの深まり

### ・中学校教員による小学校段階からの一部教科担任制

- 中学校への円滑な接続

### ・小学校段階からの部活動参加

- 運動・文化にふれる機会や学校生活の充実
- 上級生の自己有用感の育成

### ・異学年交流の充実

- 図書館での上級生による読み聞かせや合同での給食や掃除など
- 多様な関わりの中で社会性や協調性を育成

### ・児童・生徒による主体的な学校風土の醸成

- 下級生への見本となる上級生としての意識
- 児童・生徒自身による課題解決
- 児童会・生徒会の一体化による縦割り行事や委員会活動の充実



中学校音楽専科による授業



中学生との清掃活動

## 【これまでの主な意見】※まちづくり検討会議、子育て・教育部会、まちづくり構想（地域案）アンケート等より

中学生と一緒に不安。／上級生からの悪影響が心配。／漠然とした不安がある。

施設一体型義務教育学校では低学年と共に過ごすことで中学生の「優しさ」や「思いやり」が育ったということが効果として挙げられています。また、小学校、中学校の教員が協働で 9 年間の育ちを見守ることができることも施設一体型ならではの利点です。令和 2 年度は、富秋中学校区の各校に 3 校の連携や交流を充実させる担当の教員を配置し、子どもたちのつながりがこれまで以上に深めるように取り組んでいます。

特に小学校低学年の通学に心配がある。

正式に決定された後、校区の広がりや特に低学年への配慮のもと安全確保に向けた対策を行います。

小学 6 年生の最高学年としての意識や自覚が無くなってしまふことが心配。

南松尾はつが野学園では、6 年生の節目としての前期課程修了式や異学年交流などで 6 年生が活躍する機会を設けるなどの工夫をしています。発達段階に応じ、それぞれの学年で必要な教育内容や行事を設定した教育課程に取り組めます。

和泉市のモデルとなる、通わせたいと思われる学校づくりを行いたい。

これまでの良さや地域の教育資源を活かしながら、今後求められる教育内容を実践し、新たな魅力を創出していきます。

多世代交流が盛んな学校としたい。

地域交流の拠点として、また、学習拠点として地域との連携・協力を深めながら「地域と共にある学校」づくりを進めています。

**新しい魅力の創出、不安や課題の解消に向けては、行政、学校だけでなく保護者や地域の方とも連携した取組みを進めていきます。**

## 【今後の取組み予定】

施設一体型義務教育学校の導入を決定するためには、地域への個別説明、学校新設についてのアンケート調査などにより、地域の理解と協力を得るなど、丁寧な議論が必要になります。

また、小学校と中学校がひとつになることにより、得られる効果や地域・保護者が不安と感じる部分などに関し、理解を深めていく必要があります。

賛同が得られるよう、地域との意見交換など取組みを推進していきます。

- ・ P T A、町会関係者等が参加する意見交換会の開催
- ・ 検討状況の情報発信 ・ 地域説明会 ・ アンケート調査



地域の方々の理解、機運を確認

適正就学対策審議会への

富秋中学校区での施設一体型義務教育学校設置に関する諮問

※適正就学対策審議会は、市議会議員代表、学識経験者、地域関係者、保護者代表者などで構成され、各校の就学区域や学校の設置などについて審議する諮問機関です。

## メール登録で 情報をお届け! & ご意見をお寄せください!

メール登録をしていただければ、富秋中学校区の新しい学校の検討についての情報を受け取ることができます。また、みなさんからのご意見もお寄せください。登録はアドレス宛て、もしくは右記 QR コードを読み取っていただき、氏名、「ニュースレター希望」を記載のうえ、ご返信ください。



【tomiaiki@city.osaka-izumi.lg.jp】